

こころる便り

第232号

令和元年7月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話0791-75-1212

子供が増えた

昨年の梅雨時期には豪雨災害で大変でした。自然災害が発生すると、自衛隊の災害派遣やボランティアが活躍することになります。自衛隊は国を護ることが役割で、ボランティアの人にも本業の仕事があるはず。お互いが本来の仕事に懸命に取り組んでいくことで、世の中が助け合い、支え合いという人間社会を円滑に動かしています。

経験や技術を生かすことで、高い品質のものがより安く提供されていくことになるのが本来の流れとなるはずが、まず、安くという値引き競争を重ねた結果、安ければいいという陳腐な価値判断しかできない人間社会をつくってきたように思えます。

高い技術を安くすることを、松下幸之助は水道の水に喩えました。公園の水道の水は、川の水をそのまま持ってきたものではなく、いろんな処理をされて飲み水として提供されている。しかし、その水を黙って飲んでもだれも文句を言わない。訴えられることもない。製品をつくるならば、限りなく良い製品をこの水のように安く提供することができれば、国民は豊かになる。そのような考えで経済界のトップとし

て導いてこられたのですが、悲しいことに現在は百円ショップがその証明のようになってしまいました。

振り返ってみて、人間そのものもどうでしょうか。本物の大人が少なくなっている、大人のふりをしていて子供が多くなっている、年齢の低い子供たちが立派な意見と行動を持ち、社会を責任ある行動で動かすべき大人が幼児のような事件や事故を起こす。そして、責任を取ることもない。

このまま進んでいくとしたら、AIの思うままに支配されていく社会へと動かざるを得ません。世界一優秀な民族といわれた大和民族が崩れていくことは信じたくないことではあります。あまりにひどいと感ずるのは私だけではないと思います。

大人として、まずは権利を求める前に義務を果たす人でありたいものです。

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をすよう、そして報いを求めぬよう」

明治の偉人、後藤新平の言葉にしっかりと応えられる人を目指したい。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第二十二課 信義

加藤清正は信義の心の強い人でありました。豊臣秀吉が明國を討つために、兵を朝鮮に出した時、淺野幸長が蔚山の城を守つてゐたところへ、明國の大兵が攻めよせて來ました。其の時、城中の兵が少い上に、敵がはげしく攻めるので、城は日にましあやふくなりました。そこで、幸長は使を清正のところへやつて救を求めました。清正はそれを聞いて、「自分が本國をたつ時、幸長の父の長政がくれぐれも幸長の事を自分に頼み、自分もまた其の頼を引受けた。今もし幸長のあやふいを見て救はなかつたら、自分は長政に對して面目が立たない。」と言つて、すぐに部下の者を引きつれて出發しました。清正は手向つて來る敵を僅かの兵で追散らして、蔚山の城にはいり、幸長と力を合はせ、明國の大兵を引受けてこゝにたてこもり、大そう難儀をしたが、とうとう敵を打破りました。



格言 義ヲ見テ爲ザルハ勇ナキナリ

NPO法人 愛ランド様の協力で障書を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただきます。お待ちしております。